

口蹄疫の対策 国際バルク戦略港湾

市議会経済建設常任委員会で 宮崎市と志布志港を視察

二度と口蹄疫の被害を出さないために

空港でも市役所でも
今でも消毒マットを置いてウイルス侵入阻止



宮崎市の
農業戸数は
三七二二
戸、このう
ち畜産農家
は五九七
戸、畜産の
農業生産額
は六六億八
八二〇万三
千円となっ
ています。

そこに、二二年四月二〇日、宮崎県内で十年ぶりに口蹄疫が発生しました。最終的には二九二戸で患畜・疑似患畜二一七七一頭が発生。他にワクチン接種が八万七千頭に行われました。

口蹄疫発生に伴い、「新たな防疫対策」が決定されました。その内容は十キロ圏内は移動制限区域としてすべての牛・豚を対象に殺処分を前提にワクチン接種を行う。接種した家畜には経営支援を行う。

十・二十キロ圏内については搬出制限区域とし、製品化した上で出荷する。価格減少による差損について支援を行う。

殺処分においては手当金の交付を行う。殺処分の評価額と手当金の差額(五分の一相当)は宮崎県が補てんし、国は特別交付税措置を講じる。

こうした苦勞をただけに、今後は国内にウイルスを絶対に入れない取り組みが大切です。宮崎市などでは、いまだに「警戒レベル」ということで、空港や市庁舎の出入り口などでは、消毒マットを置いて防疫体制をとっています。

では全国的にはどうでしょう。こうした取り組みは宮崎だけでいいというものではないと思うのですが、少し、警戒心が緩んでいるような気がします。

本当にトウモロコシの需要が増えるのか!?



志布志港は年間の貨物取扱量が九七〇万トン、主な輸入はトウモロコシ、輸出は自動車タイヤです。国際バルク戦略港湾の整備に先立って、新若松地区に国際コンテナターミナルを整備中で、一部供用開始となっています。このコンテナターミナルに十四メートル岸壁が整備されており、この岸壁のためにつくった航路などを利用して、国際バルク戦略港湾を新たに整備しようと計画しています。

志布志港の特徴は穀物埠頭は、民間会社の専用埠頭(一本)で、そこに系列のサイロ会社・飼料会社が集積しています。そのこともあって、トウモロコシの輸入量は鹿島港に次ぐ全国二位となっています。

南九州は畜産王国で、肉用牛は鹿児島が全国二位、宮崎が三位、熊本が四位、豚では鹿児島が一位、宮崎二位、熊本一位、ブロイラーも宮崎一位、鹿児島二位、熊本六位と全国の主要な産地となっています。

鹿児島県は、飼料生産では全国一位の四一三万トンを生産。その多くが志布志港に輸入されたトウモロコシを原料としています。

国際バルク戦略港の整備は、民間の飼料用の専用埠頭の脇の海域に専用ドルフィンを設置、ここを十四メートルバースとして活用、最終的には超大型船が入港できる十七メートル岸壁へと掘り下げる予定になっています。

国際バルク戦略港湾をはじめとした港湾整備とあわせ、陸路でも都城志布志道路、東九州自動車道、大隅縦貫自動車道などの高速道路網の整備をすすめています。

問題もあります。民間の専用岸壁(水深一三メートル)だけでも、かなりの輸入があります。このうえ新たな十四メートルの岸壁をつくっても、それに応じて輸入量が増えるのか、最終的に十七メートル岸壁をつくっても需要がそこまで伸びるのか?民間会社は不安に思っているようです。それなら当面は、民間の十三メートル岸壁を改良して対応したらどうか?最終の調整はまだついていません。

